

# 「認知的インタラクションデザイン学」公開講義

京都工芸繊維大学 大学院工芸科学研究科 情報工学専攻では、2015年度より、インタラクションデザイン学コースを設置し、そこでの授業として「認知的インタラクションデザイン学」を開講しています。本講義は、公開講義として実施しますので、学内外から、どなたでもご参加いただくことができます。参加費無料、事前登録は不要です。

問い合わせ先: 京都工芸繊維大学 情報工学・人間科学系 岡 夏樹 (nat AT kit.ac.jp)

## 演題: 人と動物はいかにしてパートナーとなったのか。人-動物インタラクションにおける社会的シグナルの検出と認知

講師: 鮫島 和行(玉川大学脳科学研究所 教授)

日時: 2016年7月1日(金) 10:30-12:00

会場: 京都工芸繊維大学 松ヶ崎キャンパス 東部構内 東3号館(ノートルダム館)3階 K-302教室

概要: イヌやウマなどの伴侶動物は、家畜化を通して、ヒトと関わりヒトの使役に使われるだけでなく、ときにはヒトの感情やヒトの認知を予測して行動するパートナーとして選択されてきた。これらの動物はなぜヒトとともに共生できたのであろうか。ヒトと動物は様々な社会的シグナル(視線・動作・音声)などを通じて情報を相互にやりとりする。新学術領域「認知的インタラクションデザイン学」のB班のプロジェクトでは、これらの社会的シグナルを、馬術訓練や盲導犬訓練等の場面で定量的に観測することで、ヒトや動物がどのような社会的シグナルを使うのかを抽出し、それらの社会的シグナルが弁別または強化刺激になるのかどうかを実験によって検証するプロジェクトを進めている。

本講義では、これらのプロジェクトの一部を紹介し、社会的シグナルの認知や、社会的シグナルによる強化の認知モデルの可能性について議論したい。

